

# 北ア（裏銀座）縦走

【報告者】T 寄

【日時】2007年4月28日～5月5日

【参加者】T 寄

## 《 報 告 》

### 1日目（4月28日） 曇り時々雨のち小雪

高瀬ダム 8:25→8:40 ブナ立尾根登山口→10:30 1730m→12:20 2060m 12:45  
→13:40 2210m→15:25 2425m→16:20 烏帽子小屋

松本から一番列車に乗り 7:01 信濃大町駅に着く。駅前でタクシー同乗者を探すが、時間が遅過ぎたのか、残念ながら私以外に登山者はいない。七倉の登山補導所で登山届けを出す時に、「最近ブナ立尾根からの登山者がいないので、烏帽子小屋まで一日では無理かも知れない。雪は、例年の6～8割。」と云われる。

No.10 辺りでアイゼンを着ける。トレースなし。権太落シを過ぎた辺りでヒザ下まで潜るのでワカンに替える。1800m からはガスと小雪で視界がきかない。1950m 辺りで70m 程のナイフリッジを渡る。ラッセルに喘ぎながら、やっと烏帽子小屋に到着。風をよけて小屋の裏にテントを張る。雪が少なく、且つ締まっていなくて、予想以上に時間がかかってしまった。

### 2日目（4月29日） 快晴、強風

烏帽子小屋 5:45→7:10 三ツ岳→9:35 野口五郎小屋→9:55 野口五郎岳 10:10→12:15  
東沢乗越→14:00 水晶小屋→15:30 ワリモ岳→16:20 鷲羽岳 16:35→17:20 三俣山荘



（烏帽子より三ツ岳）

烏帽子小屋から池を過ぎるまでヒザまで潜る。三ツ岳に登っている時に、頭上をカラフルな気球が7基通過する。気持ち良さそうにフワリと浮いているが、以外に速いスピードで、あっという間に通過していった。雪は、所々クラストしている所もあるが、くるぶしまで潜る。野口五郎岳で休憩。素晴らしい眺望である。写真を撮り、家

内にメールを送る（昨日は一日電波が届かず、心配掛けたようである）。真砂岳は巻道を通る。真砂乗越からと東沢乗越からのヤセ尾



(野口五郎岳より槍ガ岳)



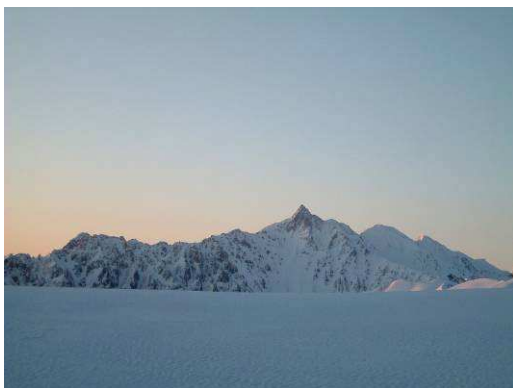
(野口五郎岳より鷲羽岳方面)

根がナイフリッジである。なかなかイヤラシイ。時間をかけて慎重に通過する。水晶小屋下のヘリ事故現場で手を合わせる。

水晶小屋からは風が強く、雪は締まっていて歩きやすいが、バテておりピッチがあがらない。ワリモ岳の下りがイヤラシイ。鷲羽岳の登り下りは夏道が出ている。やっと三俣山荘に到着。水晶岳までの軟雪とナイフリッジに手間取り、12時間もかかってしまった。ゴールドデンウィークなのに裏銀座は人気がないのであろうか、今日も誰も会わなかった。風が非常に強いのでブロックを1m程積む。疲れて食欲があまりないが、アルファ米をお茶漬けにして流し込み、ソーセージを詰め込む。今日は疲れたが、快晴で楽しくまた充実した一日であった。「昼食は、ソイJ o Y 3本・干し芋3枚・アメ5ヶ・羊羹3切・黒糖バナナチップをレーションしていたが、袋の中がグチャグチャである。バナナチップは別にしておくべきであった。」等と反省しながら、早々に就寝する。

### 3日目(4月30日) 快晴、無風

三俣山荘 6:10→7:30 三俣蓮華岳→9:00 双六岳→9:40 双六小屋 10:20→12:10 弓折岳  
12:35→16:50 新穂高温I



(三俣山荘より早朝の槍ガ岳)

黒部側の尾根を登るつもりでカールの下部をトラバースしていたが、雪の状態が良くしっかりクラストしているので、カールを一気に頂上目指して直登する。晴天であるが無風で蒸し暑い、気味悪い天気である。天候が荒れそうな感じである。双六小屋で明日の天気と笠ヶ岳までの状態を確認して、以後の行動を決めることにする。三俣と双六岳の稜線で1パーティー(8人)と行き



(三俣蓮華より笠ヶ岳)

交う。入山3日目にして初めて人に会う。双六岳からテン場を見ると、テントが5張りしかなく、小屋周辺に人が少ない。

小屋で天気予報を聞くと、明日・明後日は天気が悪くなるとのこと。

・笠から雷鳥岩までの雪底 ・クリヤノ頭直下の雪の状態 ・1250mの渡渉点の水量  
・ガスによる視界不良 ・最悪は、笠の肩で2日間沈殿するか等々、クリヤ谷の下降

ルートを頭に描きながら考え込んでしまう。

双六小屋は除雪中で営業を行っていない。理由を聞くと、「先日、支配人(?)が笠で雪底を踏み抜き、滑落して亡くなった。ホワイトアウトだろう。」とのこと。

冬季に1回、無雪期に3回の笠ヶ岳を経験しているが、すぐにガスが湧き、天候が急変する笠ヶ岳とくにクリヤ谷の怖さは良く知っている。そのためにGPS、8mmザイル50mを準備したが、弓折岳から小池新道を下山することにする。鏡平山荘へ



(弓折岳からの北穂滝谷)

は寄らずに、一気に下る。大ノマ岳・抜戸岳からの雪崩のデブリを通るが、気持ち良いものではない。3年前にテントを張った新穂高ロープウェイ乗場横のキャンプ場が幕営禁止になっている。キャンプ場の倉庫の軒下にザックを置いて、中崎旅館の風呂に入りに行く。檜風呂の良い湯であった

(500円)。宿泊費を聞いたら、一泊二食で13600円とのこと。手元不如意のため、火

は使わずにコッソリと設営することにする。

#### 4日目(5月1日) 曇り時々雨

沈殿 中尾高原の旅館に泊まる

5時前から雨が降り出す。やはり、下山して正解であった。ロープウェイ乗場の足湯に2時間程のんびりと浸かり、しっかり足指をマッサージする。第2ロープウェイは強風のため運休とのこと。新穂高食堂で朝昼兼用の朴葉味噌定食に舌鼓を打つ。手指の切れを治療しながら、食後のお茶をゆっくりいただく。雨のためか、連休の谷間のためか人が少ない。観光案内所で中尾高原の宿を予約する。二食付で一万円は仕方ないのであろうか。

## 5日目（5月2日） 雨のち曇り

中尾高原 10:15→11:10 登山口→14:00 中尾峠→14:30 焼岳→15:10 新中尾峠 15:30  
→17:00 田代橋→17:25 小梨平キャンプ場

10時過ぎになって、小雨が降っているが天気が回復しそうになったので出発する。1600m 辺りからやっと雪が出てくる。グズグズの雪である。何日か前のトレースがあるので、有難く使わせてもらう。ズボズボ潜るのでワカンを使う。快調である。1800m 辺りからガスが出て風も強くなる。GPSを見ながら中尾峠へ向かう。稜線に出たら夏道が出ている。ガスで何も見えない中を風に追われるように、峠にザックを置いて焼岳を往復する。焼岳小屋の横で風をよけながら小休止。上高地側へ少し下ったら、ガスがはれ、風もなくなった。田代橋まで一気に駆け下る。小梨平食堂のオーダーストップにぎりぎり間に合い、禁制の肉とビールで祝杯を挙げる。雨に濡れた体を風呂で温め、賑やかな小梨平キャンプ場にテントを張る。

## 6日目（5月3日） 快晴

小梨平 6:05→6:35 明神→7:50 徳本峠小屋 8:10→9:00 ジャンクションピーク 9:10  
→10:50 K1→11:20 霞沢岳→11:40 K1 11:50→13:35 ジャンクションピーク→14:05  
コル→14:55 明神→15:30 小梨平

霞沢岳をピストンする。徳本峠小屋の主人の話では、小屋泊の人・テントの人（峠近くに3張）とで10人ほど霞沢岳へ行ったとのことであった。ジャンクションピークの登りで一汗かく。ジャンクションピークからピーク 2384の方へはトレースがある



（K1で穂高をバックに）

が、霞沢岳へは見当たらない。地図を頼りに霞沢岳への尾根を進む。樹林帯を抜けK1が見え出してトレースがあった。K1の登りで一人（トレースの礼を言う）、K1頂上で一人と先行者は二人だけだったようである。もしかしてジャンクションピークから間違ってピーク 2384へ行ったのかもしれない。K1からの穂高の眺めが素晴らしい。

K1上で穂高をバックに、先行者とお互いに写真を撮りあう。K1からK2への降口がイヤラシイ。雲が出出したので、霞沢岳を往復して、さっさと下山する。ジャンクションピークに1パーティー、コルに2パーティーが幕営準備をしていた。霞沢岳は人気のようなのである。コルから明神へ駆け下

る。シリセードでトレースを台無しにしている2人組がいたので注意した。礼儀を知らない人達のようなのである。23時から凄い稲光に雷鳴と雨が2時間程続いた。

### 7日目（5月4日） 快晴

休養日。岳沢を途中まで登り、明神まで散策。



(小梨平から岳沢・奥穂)

朝6時にゆっくりと起き出し、濡れた物を半日かかって乾かす。16歳で穂高に魅入られたと言う70・80代の山岳部OB団が賑やかで楽しげである。毎年同じ場所にテントを張っているそうである。長い人は4月下旬から5月いっぱいキャンプしているそうである。鳥の声と梓川のせせらぎを聞き、ただ岳沢を見上げながらの、おしゃべりと読書の生活だそうだ。

昼から散策に出る。岳沢を2000mまで登り、小梨平を見下ろす。テントの数も増えてるようでカラフルである。岳沢ヒュッテは先年の雪崩で倒壊しているの、岳沢ルートの踏み跡はまばらである。明神の穂高神社で35年前の冬の屏風岩で亡くなった山仲間達の冥福を祈る。嘉門次小屋が人だかりである。昔はひっそりとしていたのに、時代は変わったものである。

### 8日目（5月5日） 晴れ

小梨平 8:30→大正池→11:00 中の湯 13:05→15:15 松本

名残惜しいが、本日が最終日である。朝、梓川の畔で岳沢を見上げながら日光浴をする。上高地バスターミナルは大変な混雑である。大正池をのんびりと巡りながら中の湯まで歩く。駐車場に入れないバスが延々と連なっている。新穂高温Iはガラガラだったのに、上高地の賑わいは凄いものである。一昨年に新しくなった釜トンネルは、歩道があって安心して歩ける。中の湯で秘湯「ト伝の湯」に浸かる。入浴時間が本来なら30分のところを、昨年夏と同じように1時間にしてくれる。笠ヶ岳・クリヤ谷は残念ながら行けなかったが、充実した山行であった。中の湯から、満員のバスに乗り込む。車窓からの眺めは、沢渡では桜、稲核ダムからは山吹・レンギョウの黄色、雪柳の白、ハナミズキの白とピンク、菜の花の黄色、藤・木蓮の紫、りんごの白い花等々一斉に春である。